

令和2年度第1回外部評価モデル小委員会議事概要

- I. 日 時：令和2年8月19日（水）14：00～16：00
- II. 場 所：私立大学情報教育協会事務局（ネット会議）
- III. 出席者：角田担当理事兼総括委員長、大原主査、前田委員、佐渡友委員、竹内委員、酒井委員、及川委員、児島委員、事務局：井端事務局長、中村職員

IV. 検討事項

資料に沿って事務局から昨年度の小委員会の活動報告、本年度の活動方針、活動日程、外部点検・評価・助言モデル構想の概要、思考力等の標準的な能力要素のルーブリック参照例、ビデオ試問と紙による評価との違い等について、以下の通り説明が行われ、引き続き質疑・意見交流を行う中で検討事項の確認を行った。

1. 昨年度の小委員会の活動報告とモデル構想の概要について
モデル構想提案の背景と外部者による点検・評価・助言の意義について、次のような説明が行われ、認識を共有した。
 - (1) 思考力等の外部点検・評価・助言モデル構想提案の背景と意義
 - ① AI、IoTなどの先端技術があらゆる分野に取り入れられ、社会の在り方そのものが大きく変化する超スマート社会(Society5.0)では、答えの定まらない課題に対して最善の解を見出す知の変革が求められてきており、大学教育の質向上の観点から振り返りが求められている。
 - ② これまでの授業は一部を除き、多くが知識の伝達・獲得に比重をおいてきたが、これからは知識を組み合わせ、問題の本質を捉え発想・創造する「考える力」を訓練する問題発見・解決型PBL（プロブレム・ベースドラーニング、プロジェクト・ベースドラーニング）の普及・充実が急がれる。
 - ③ 問題の本質を見極める思考力等の能力を訓練するため、外部者が客観的に「考える力等」の能力を点検・評価し、その結果を担当教員から学生に助言を行い、気づきを促すことができるように支援するための仕組みが重要と判断した。評価するためのモデルではなく、卒業するまでに学生自らが思考力等の能力要素を身に付けられるようにするための助言をシステム化するもので、大学教育の質保証の一環として、モデル構想案を検討することを確認にした。
 - (2) 点検・評価・助言システムの概要
 - ① クラウドに蓄積した外部の教員・有識者によるビデオ（分野別）で映像・図等のコンテンツを用いて試問し、教室の学生から記述式でクラウドに回答するシステムを検討している。
 - ② ビデオ試問を受ける学生は、PBL(プロブレム・ベースドラーニング、プロジェクト・ベースドラーニング)科目で思考力等の訓練を受けた学生を対象としており、美術・デザイン系分野の独創性・芸術性や製作技術、資格取得を目指す知識・技能の量及び正確性を中心とする実技・実演等の分野は対象外としている。
 - ③ 点検・評価は思考力等の到達度の把握に重点をおいている。PBLで培う協働力、巻き込み力などの行動特性のコンピテンシーはチームの編成などの授業環境により影響を受けるため、学生一人ひとりの能力として客観的に点検できないので能力要素の対象から除外している。
 - ④ 現在考えている標準的な能力要素は、学生一人ひとりが身に付ける「論理的・批判的思考力」、「科学的考察力」、「問題発見・課題設定・解決力」、「価値創造力」、「論旨明快な表現力」とし、その到達状況をルーブリック化することとしている。内容については未調整のため、今後検討を深め学生に分かりやすい表現にする工夫が必要である。
 - ⑤ 分野別の学修到達目標の設定は、本協会が平成24年度にとりまとめ公表した「分野別の学修到達目標」を再確認し、その上で「標準的な能力要素の到達度点検・評価・助言ルーブリック」を参考に能力要素の重み付けを行い、ルーブリックの点数を表示化することを考えている。
 - (3) モデル構想を実現するための組織・体制の概要
 - ① モデル構想を実現する組織として、有志の大学間で持ち回りとする拠点大学、本協会をはじめとする教育関係団体等で「コンソーシアム」をクラウド上に構築することが望まれる。
 - ② 当面は、モデル構想について理解を広めていくため、分野別の点検・評価・助言の仕組み作りを優先することが得策と考え、本協会の学系別FD/ICT活用研究委員会、サイバーキャンパスコンソーシアム

運営委員会で対応していくことを考えている。なお、分野横断のコンソーシアム構築は分野別コンソーシアムを基盤にするため、改めて大学関係者、社会の有識者で構成し、仕組みづくりを検討する必要がある。

- ③ 学修成果の質保証システムとしての有効性を検証するため、パイロット的な試行プログラムを策定し、プラットフォームの構築・運営に伴う資金確保と体制、人的組織の整備・運営方法などの実現可能性及び有効性について本協会でも実験・検証する必要がある。その際、試行プログラムで扱う対象は、到達目標の再確認などに比較的取組みやすい文系、理系の一分野を想定している。

(4) 対話集会での反応

- ① どの対話集会でも意見交流に時間がとれなかったなかで、モデル構想案について思考力等の到達度を点検する仕組みであることが理解され、認識の共有が促進された。
- ② 機械工学分野におけるビデオ諮問の試作2件については、「質問の背景や質問事項を文字や音声で示すのではなく、ドラマのような映像を見せる中で問題の背景や課題を考えさせるコンテンツが望ましい」、「紙と映像による違いを明確にしてビデオ諮問の必要性が理解できるようにする」、「専門が異なる教員で作る必要がある」、「文系と理系用のビデオ諮問が複数必要となる」、「障害を持つ学生や留学生への対応を考慮したコンテンツ作り」などの意見があり、令和2年度に検討することにした。

2. 令和2年度の活動方針について

本年度12月の対話集会に向け、「モデル構想の具体化」、「能力要素の到達度点検・評価・助言ルーブリックの修正」、「ビデオ諮問コンテンツの試作」を本委員会のアウトプットとして研究することを確認した。

なお、ビデオ諮問の試作は文系・理系で2件作成することとし、法学分野、機械工学分野で進めることについて改めて確認することにした。また、対話集会において意見交流できるよう、11月下旬を目指して以下の日程で研究する予定を計画した。

- ① 9月14日(月)
 - ※ モデル構想提案の背景と意義
 - ※ クラウドを活用した点検・評価・助言の仕組み
 - ※ 思考力等の標準的な能力要素の点検・評価・助言ルーブリック参照例の見直し(能力要素ごとに点検・評価の観点、点検・評価の基準を再確認・調整)
 - ※ ビデオ試問と紙による評価との違い
 - ※ ビデオ試問コンテンツの作成要領・ガイドの策定
- ② 9月30日(水)
 - ※ 学生が理解しやすいルーブリック表現の点検・調整
 - ※ 学生にフィードバックする助言テンプレートの作成
 - ※ ビデオ試問コンテンツの作成要領・ガイドの策定
 - ※ 試作コンテンツの進め方
- ③ 10月13日(火)
 - ※ 外部点検・評価コンソーシアムの役割と運営
 - ※ 点検・評価者の構成と公募基準・方法
 - ※ 点検・評価・助言クラウドの構築と運営
- ④ 10月21日(水)
 - ※ 学生が理解しやすいルーブリック表現の点検・調整
 - ※ 学生にフィードバックする助言テンプレートの作成
 - ※ 試作コンテンツと能力要素の到達度点検・評価との関係性について点検・調整
- ⑤ 11月7日(土)
 - ※ モデル構想の具体化計画のとりまとめ
 - ※ 思考力等の到達度点検・評価・助言ルーブリックのとりまとめ
 - ※ ビデオ試問コンテンツの試作のとりまとめ

3. 「思考力等の標準的な能力要素の点検・評価・助言ルーブリック参照例」の見直しについて

- ① ビデオ試問は思考力等を点検・評価する手段なので、紙面も含めた方法も含めて考えた方がよいのではないかと意見があった。
- ② ビデオによる問いかけは、問題の背景・課題を映像等で視覚化することで暗黙の意図も含めて試問できるが、紙面上の問いかけは、文字情報に限定されるのでビデオで幅広く試問できるようにしておいた方がよいのではないかと。また、外部者が直接語りかけるように試問することで、リアルな緊張感を学生に持たせ、真剣に試問に向き合うようになることが期待される。なお、障害者への対応としてビデオだけでは対応できないので、紙面も組み合わせる方法を考える必要があり、改めて両方を含む点検・評価の手段について検討することにした。

- ③ 能力要素の「問題発見・課題設定・解決力」は、問題発見力、課題設定力、課題解決力それぞれの到達度をみるのではなく、一連のプロセスが身につけているかを点検することになっているため、点検・評価の観点では、「現象とあるべき姿のギャップの問題を発見して、本当に解決すべきテーマは何かを設定し、多様な解決策を順序立てて最適化できると」した。それに基づく到達度の基準を作成したが、今後、精査する必要がある。
- ④ 例えば、「問題発見できるが解決できない、問題発見はできないけど解決できる」、というような場合に、点検・評価基準のどのレベルに該当するのか。
問題発見力、課題設定力、課題解決力を個別に点検するとなれば、多様性がでてきて表現が難しくなるので、「問題発見はいいと思うが課題設定は今一步とか、設定した課題に対しての解決力はある」、などのようにプロセスの中で重み付けをするように考えた。しかし、基準内容が未調整のこともあり、改めて表現を見直すことにした。
- ⑤ 「問題解決力」という言葉自体に「巻き込み力」、「計画力」、「傾聴力」、「実行力」などの能力が非常に重要となるが、ここでは学生個人の思考力等の獲得に重点を置いていることから、行動特性の能力（コンピテンシー）は直接的に点検・評価しないことにしている。
また、「巻き込み力」、「計画力」、「傾聴力」などを測る試問が作れないとどうにもならないことから、学生個人の能力として測れるところに重点を置かざる得ないのではないかと。行動特性の能力は対象外としていることをルーブリックの欄外に分かりやすく言葉を添えることにした。
- ⑥ 「問題発見・課題設定・解決力」の基準5について、「・・・多様な解決策を順位付けて最適化できる」は、解決法をいくつか出して、相手を納得させるよう理由付けができることを意味しているので、最適化という表現を改めて「・・・いくつかの解決策を順位付けして理由を述べることができる」に修正することにした。
- ⑦ 能力要素間で点検・評価の基準が重複しているところの指摘があり、以下のように修正又は検討を続けることにした。
* 「論理的な思考力」の基準に掲げた「多面的に課題を見つけ」、「課題を見つけ」は、「問題発見・課題設定・解決力」の「課題の抽出」と重複するため、「与えられた課題について」に修正した。
* 「論理的な思考力」の観点で「課題から仮説を立て、自分なりの・・・」と「仮説」を表示しているが、「科学的な考察力」の基準でも「仮説」が表示されている。科学的な考察力では仮説を立ててモデルにして検証していく形になるので、論理的な思考力というよりは馴染む感じがする。改めて精査する必要がある。
- ⑧ 「論旨明快に表現する力」では解決策の説得力が問われるので、この次に「問題発見・課題設定・解決力」をおいてはどうか。
「論旨明快に表現する力」は到達度の「出口」として最後の仕上げに相当する能力なので、これができるれば相手を巻き込むこともできるになると考えてはどうか。
- ⑨ 以上の議論を踏まえて、能力要素のルーブリックについて、各委員検討を行い、次回委員会に意見を持ち寄ることにした。

4. 次回の検討事項、開催日時について

今回は9月14日（月）午後5時半とし、主に思考力等の標準的な能力要素の見直しと、ビデオ試問コンテツの作成要領・ガイドの策定を検討することにした。